



高井戸東小学校

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/takaidohigashisyou/> TEL 03-3304-5711

3 月号
No. 636

毎日が新しい

校長 馬場 章弘

令和7年度も最後の月となりました。25日になると今年も89名の子供たちが小学校を巣立っていきます。保護者の方々にとっては長かったようであつという間の6年間かもしれません。ランドセルが歩いているように見えた1年生も6年生となり、ランドセルがきつそうに見えるようになりました。

2025年のノーベル化学賞はカリフォルニア大学やメルボルン大学の方と共に京都大学特別教授の北川進さんが受賞しました。金属有機構造体の開発に対して与えられたものです。

北川先生の座右の銘の一つに『無用の用』という言葉があります。意味は、「何の役にも立たないように見えるものが、実はとても重要な役割を果たしている」ということです。私たちは日頃ただ単純な毎日を過ごしているように感じ、それを「つまらないもの」として、否定したり何か新しいものを求めたりすることがあります。子供たちも、毎日学校に通い友達と一緒に学ぶことに疑問を感じる場合があります。コロナ禍以前にもありましたが、新型コロナウイルス感染症で学校が休校になった後、「学校に行かない」という選択肢を選ぶ子が増えてきたと感じています。家から学校まで歩き、階段を上り教室に入り、時間割に沿って学習をし、休み時間は外に出て友達と遊び、給食を食べ、午後の学習が終わったら家に帰る、そのような毎日の繰り返しです。しかし、別の見方をすると、その毎日が、いつも新しいこととの出会いになっていま

す。例えば、国語で物語を読んでいるときは、登場人物の感情に出会い、新しい状況や風景に出会います。理科では自然の法則や物事の性質に出会い、実験器具やその扱い方に出会います。先日ある新聞に、オオバコがダンゴムシの糞の成分を感知して発芽をコントロールしている記事が掲載されていました。自分の足元にある世界で、そのような不思議なやり取りがあるとは、全く知りませんでした。さらに、授業で自分の考えを発表し合うときも、自分とは別の考えと出会い、その影響を受けて自分の考えが変わるかもしれません。考え方によっては、毎日新しいこととの出会いで満たされています。

これまでも、そしてこれからもこの新しい出会いにわくわくするような子供たちの感性を育てていきたいと考えています。

今年度本校の教育にご理解とご協力・ご尽力いただきました。保護者・PTA、OYA-JIの会の皆様、青少年育成会や地域、学校運営協議会、学校支援本部、見守りボランティア、朝遊びや放課後ロング遊びで見守りをいただいた皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。皆様の献身があつてこそ、高東小の自慢である「素直で明るい子」が育っているのだと思っています。

4月から引き続きお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

来年度の始業式について

教務

4月6日（月）

<登校> **8時10分～8時15分**

<下校> **裏面を確認**

<場所> **校庭（雨天：新学年教室）**

※新学年の整列場所に、旧学級で整列します。

（プール側から5組・6年・4年・2年・3年・5年の順）※雨天時は、新学年の廊下で新学級の名簿を受け取り、新学級に入室します。

<持ち物>

①手提げ袋 ②連絡袋 ③筆記用具

（雨天時：④上履き ⑤外靴入れ用袋）

<内容>

- ・新年度教職員紹介
- ・始業式
- ・学級連絡